

「教育サービス面における社会貢献」評価報告書

(平成12年度着手 全学テーマ別評価)

岡 山 大 学

平成14年3月

大学評価・学位授与機構

大学評価・学位授与機構が行う大学評価

大学評価・学位授与機構が行う大学評価について

1 評価の目的

大学評価・学位授与機構（以下「機構」）が実施する評価は、大学及び大学共同利用機関（以下「大学等」）が競争的環境の中で個性が輝く機関として一層発展するよう、大学等の教育研究活動等の状況や成果を多面的に評価することにより、その教育研究活動等の改善に役立てるとともに、評価結果を社会に公表することにより、公共的機関としての大学等の諸活動について、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくことを目的としている。

2 評価の区分

機構の実施する評価は、平成 14 年度中の着手までを段階的実施(試行)期間としており、今回報告する平成 12 年度着手分については、以下の 3 区分で、記載のテーマ及び分野で実施した。

全学テーマ別評価（「教育サービス面における社会貢献」）

分野別教育評価（「理学系」、「医学系（医学）」）

分野別研究評価（「理学系」、「医学系（医学）」）

3 目的及び目標に即した評価

機構の実施する評価は、大学等の個性や特色が十二分に発揮できるよう、当該大学等の設定した目的及び目標に即して行うことを基本原則としている。そのため、大学等の設置の趣旨、歴史や伝統、人的・物的条件、地理的条件、将来計画などを考慮して、明確かつ具体的な目的及び目標が設定されることを前提とした。

全学テーマ別評価「教育サービス面における社会貢献」について

1 評価の対象

本テーマでは、大学等が行っている教育面での社会貢献活動のうち、正規の課程に在籍する学生以外の者に対する教育活動及び学習機会の提供について、全機関的組織で行われている活動及び全機関的な方針の下に学部やその他の部局で行われている活動を対象とした。

対象機関は、設置者（文部科学省）から要請のあった、国立大学（政策研究大学院大学及び短期大学を除く 98 大学）及び大学共同利用機関（総合地球環境学研究所を除く 14 機関）とした。

各大学等における本テーマに関する活動の「とらえ方」、「目的及び目標」及び「具体的な取組の現状」については、「教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標」に掲げている。

2 評価の内容・方法

評価は、大学等の現在の活動状況について、過去 5 年間の状況の分析を通じて、次の 3 項目の項目別評価によ

り実施した。

- 1) 目的及び目標を達成するための取組
- 2) 目的及び目標の達成状況
- 3) 改善のためのシステム

3 評価のプロセス

大学等においては、機構の示す要項に基づき自己評価を行い、自己評価書（根拠となる資料・データを含む。）を機構に提出した。

機構においては、専門委員会の下に、専門委員会委員及び評価員による評価チームを編成し、自己評価書の書面調査及びヒアリングの結果を踏まえて評価を行い、その結果を専門委員会では取りまとめた上、大学評価委員会で評価結果を決定した。

機構は、評価結果に対する意見の申立ての機会を設け、申立てがあった大学等について、大学評価委員会において最終的な評価結果を確定した。

4 本報告書の内容

「対象機関の現況」及び「教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標」は、当該大学等から提出された自己評価書から転載している。

「評価結果」は、評価項目ごとに、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として記述している。

また、「貢献（達成又は機能）の状況（水準）」として、以下の 4 種類の「水準を分かりやすく示す記述」を用いている。

- ・十分に貢献（達成又は機能）している。
- ・おおむね貢献（達成又は機能）しているが、改善の余地もある。
- ・ある程度貢献（達成又は機能）しているが、改善の必要がある。
- ・貢献しておらず（達成又は整備が不十分であり）、大幅な改善の必要がある。

なお、これらの水準は、当該大学等の設定した目的及び目標に対するものであり、相対比較することは意味を持たない。

また、総合的評価については、各評価項目を通じた事柄や全体を見たときに指摘できる事柄について評価を行うこととしていたが、この評価に該当する事柄が得られなかったため、総合的評価としての記述は行わないこととした。

「評価結果の概要」は、評価結果を要約して示している。

「意見の申立て及びその対応」は、評価結果に対する意見の申立てがあった大学等について、その内容とそれへの対応を示している。

5 本報告書の公表

本報告書は、大学等及びその設置者に提供するとともに、広く社会に公表している。

対象機関の現況

(1) 機関名 岡山大学 岡山市津島中一丁目1番1号

(2) 学部・研究科等構成

1) 学部

文学部, 教育学部, 法学部, 経済学部, 理学部, 医学部, 歯学部, 薬学部, 工学部, 環境理工学部, 農学部

2) 研究科

文学研究科, 教育学研究科, 法学研究科, 経済学研究科, 文化科学研究科, 自然科学研究科, 医歯学総合研究科

3) 専攻科, 別科

特殊教育特別専攻科, 養護教諭特別別科

4) 研究所, 附属施設等

附属図書館

附置研究所

資源生物科学研究所

全国共同利用施設

固体地球研究センター

学内共同教育研究施設

総合情報処理センター, アイソトープ総合センター,

遺伝子実験施設, 地域共同研究センター, 留学生センター,

機器分析センター

学内共同利用施設

R I 共同利用津島施設, 環境管理センター, 環境計測

共同利用施設, 吉備文化研究共同利用施設, 埋蔵文化

財調査研究センター, 大学院ベンチャー・ビジネス・

ラボラトリー, 教育開発センター

学部附属教育研究施設等

教育学部(附属教育実践総合センター, 附属小学校,

附属中学校, 附属養護学校, 附属幼稚園), 理学部(附

属臨海実験所, 附属界面科学研究施設), 医学部(附

属病院, 附属動物実験施設), 歯学部(附属病院), 薬

学部(附属薬用植物園), 農学部(附属農場), 資源生

物科学研究所(附属大麦・野生植物資源研究センター)

保健管理センター

(3) 学生総数(平成13年5月1日現在):

13,469名

学部等学生数 10,762名

大学院学生数 2,707名

(4) 教員総数(平成13年5月1日現在):

1,441名

(5) 歴史的背景及び地理的条件等

岡山大学は、明治3年及び明治7年に開かれた岡山藩医学館及び温知学校にその源を発し、戦後、地域等からの熱心な誘致運動もあり、昭和24年5月に5学部を擁する総合大学として、設立された。

本学が所在する岡山市は、中国・四国地方を横断及び

縦断する交通の結節点に位置しており、経済、文化交流の要衝となっている。こうした地理的条件のもとに、本学は、現在中四国屈指の11学部を擁する総合大学として発展を遂げ、県内唯一の国立大学として、地域の発展に貢献してきた。

(6) 将来計画等

平成12年3月に約1年半の検討を経て、『21世紀の岡山大学構想』を作成し、本学改革の基本理念を「自然と人間の共生を目指して、教育と研究の革新を - 創造的「知」の構築と自立、世界と地域への情報発信 - 」と規定した。

この構想に基づき、地域社会との連携の具体的な方策として、平成13年3月に「岡山大学における生涯学習の推進方策について」を定めるとともに、平成13年4月から地域と大学を結ぶ「地域連携推進機構(リエゾン・オフィス)」を設立した。

教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標

1. 教育サービス面における社会貢献に関する考え方

(1) 教育サービス面における社会貢献に関する考え方

情報や科学技術の高度化が一段と進展する今世紀以降の人類社会においては、「知」の府としての大学が果たすべき役割が一段と重要になる。大学は従前のように単に「知」の発掘と内部集積に専念するのではなく、人類共通の資産としての「知」の社会還元を努めなければその存在意義は半減する。その根幹をなすのは教育であり、大学は改めてその意義を深く認識するとともにそのための適切な制度整備を行わなければならない。

本学は、平成12年3月に『21世紀の岡山大学構想』をまとめた。その中で、「世界と地域への情報発信」と述べているように、学問の成果を広く世界に問うとともに、そこから得られた成果を「知」の資産として社会に還元することを重視している。もとより、世界的視野に立ち、世界に情報発信していくことを目指すのであるが、同時に、本学が地域社会の要請によって設立された経緯を踏まえ、地域の問題解決にも貢献していくことは重要な使命である。

そのため、『21世紀の岡山大学構想』においては、本学における改革の方向として「地域社会との連携、交流の拡大・充実」及び「国際化への対応」を重点項目として挙げている。地域社会・国際社会の要請に対応し、産・官・学・民の連携に関する積極的な施策を進め、真に社会に開かれた大学を目指すものである。

本学における種々の社会貢献活動は、以上の理念を具体化するものとして捉えており、教育・研究と同等の重要な使命と位置付けている。

本学における社会貢献活動は、教育、研究、医療等、多方面に亘っているが、この中における教育サービス活動については、平成13年3月に策定した「岡山大学における生涯学習の推進方策について」においてその内容を明確にしている。ここでは、本学が地域と連携しつつ、積極的に生涯学習支援への取組を展開し、その中心的役割を果たすために、次の2点を中心に具体的な活動を行うこととしている。

1) 社会人の受入れの促進

科目等履修生の積極的な受入、公開講座の充実、情報通信技術を利用した遠隔地教育の実施、多様な学習機会の提供、社会貢献のための学内組織体制の整備等

2) 地域社会への貢献

施設開放の促進、人材の派遣、地域連携ネットワークの構築、生涯学習関連ホームページの充実及び啓発資料等の作成

(なお、本「方策」には社会人特別選抜の推進等も含まれている。)

このように本学は、地域社会・国際社会との連携・交流を強力に推進しつつ、真に開かれた大学を実現し、社会の多様な期待に応えうる質の高い生涯学習の機会を提供することを目指している。

(2) 具体的活動の概要

本学が行っている教育面での社会貢献活動の概要は以下のとおりである。

- 1) 科目等履修生等の受入れ
- 2) 公開講座の開催
- 3) 大学開放諸行事
- 4) 高校生等への教育サービス活動
- 5) その他の活動

講師派遣、教育相談、展示活動、各種資格試験等、国際貢献

2. 教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標

(1) 教育サービス面における社会貢献に関する目的

社会貢献の目的は、次の2点に整理することができる。

1) 社会に開かれた大学となること

地域社会の要請あるいは時代の要請に対応し、産・官・学・民の連携に関する積極的な施策を進める。これにより、地域の住民・企業・自治体などがかかえる問題の発見・解決に積極的に寄与し、それらを教育面に生かすことにより、地域社会に貢献することができる人材を育成する。このことは同時に、地域社会に生起する事象や地域の自然環境などから問題を発見し、独創的な研究に発展させることにも繋がる。

2) 地域における生涯学習の中心的役割を果たすこと

国民一人一人が充実した人生を送ることを目指して、生涯の様々な時期に学習を行うようになってきているが、社会の複雑化、科学技術の高度化、高度情報化、国際化の進展に対応した学習ニーズが強まっている。こうしたニーズに応えるために、本学は、総合大学としての利点を生かしつつ、生涯学習の中心的役割を果たす。

(2) 目的を達成するための目標

上記目的を達成するため、本学において設定された目標を整理すると、次のとおりである。

1) 専門職業人の再教育

科目等履修生の制度を広く社会に知らせ、一層活用されるようにする。

公開講座においても、薬剤師、教師などの専門的職業人に対し、最新の知識を得たり、職業上生じる問題について深く学習する機会を提供する。

2) 一般市民への高度な学習機会の提供

公開講座の多くは、一般市民を対象として、大学教員の持つ高度な知識経験を生かして、人々が関心をもつ現代的な課題や身近な問題などについて、わかりやすく解説するものである。これらは、人々の多様な学習ニーズに応え、地域社会の文化の向上に寄与するとともに、本学に関する広報としての意味もある。また、学部を超え、総合大学としての利点を生かした全学的な講座を提供する。

さらに、地域等の生涯学習機関との連携による学外での公開講座や情報通信技術を利用した公開講座を行う。

一方、科目等履修生制度を活用し、大学院授業の受講などを含め高度な学習機会の提供を行う。

3) 大学の知的資源や施設の地域社会での活用及び公開

公開講座、シンポジウム、学外者を交えた研究会、地域や企業で開催する各種講座等への人材の派遣などを通じて、本学に蓄積された種々の分野の研究成果を公開し、地域社会や産業界に還元する。また、学内施設の開放の促進やホームページの充実等を通じて本学の情報提供の充実を図り、本学の教育研究活動に対する社会の理解を得る。

4) 小・中・高校生など若い世代に対する教育機会の提供

高校への出前授業、体験学習、研究室公開などを通じて、大学の教育研究の一端を公開し、若い世代の学問への関心を高める。また、地域の教育機関等との協力などを通じて、地域の教育力を高める。

5) 情報通信技術を利用した遠隔教育

情報通信技術を利用し、本学の生涯学習支援機能を遠隔地に住む人々にも利用できるようにする。

さらに、本学の知的資源の電子情報化を図ることにより、インターネット等を通じて学習者が学習に関する情報を容易に入手できるようにする。

平成13年度より、エル・ネット(教育情報衛星通信ネットワーク)及び岡山情報ハイウェイを利用して、公開講座を実施することとしており、この実現に向けてのプログラムを開発する。

6) 学内組織体制の整備

学内に地域社会との連携、交流活動を効率的に行うための学内機構を整備する。

また、公開講座を含めた生涯学習を実施するための協議会を設置する。

更に、地域との連携を図り、地域の要請に積極的に応

えるための「地域連携推進機構(リエゾン・オフィス)」を設置する。

3. 教育サービス面における社会貢献に関する取組の現状

本学における社会貢献活動の多くは、これまで、部局単位で個々の専門性を生かしながら取り組んできたが、現在は常置委員会及び生涯学習推進協議会のもとに全学的な取組体制が組織されている。この取り組みの中で、「岡山大学における生涯学習の推進方策について」及び『社会人のための岡山大学案内「大学で学びたいあなたのために」』を作成して、全学的な視点から、一般市民に対する学習活動の支援を行っている。

本学が地域に提供してきた教育サービスは、対象も広範囲であり、活動形態や活動内容も多岐にわたっている。以下に具体的な活動の概要を述べる。

(1) 科目等履修生制度

科目等履修生は、学則、大学院学則において規定された制度であり、本学が開講する科目の履修を希望する者を対象に、正規生の教育に支障をきたさない限り、できるだけ広く受け入れることを旨としている。学部、大学院を合わせ毎年100名前後である。

これらの受講目的は、資格取得を目指す、教養を深める、キャリア向上に役立たせる等、多様である。

(2) 公開講座

毎年、全学としての講座を開講しているほか、各部局においても専門性を生かした多くの講座を開講している。

講座の内容は、現代的な社会問題や先端科学に関する話題等、一般市民を対象にして、知的文化を啓発したり、生活の質の向上に資するものが多い。しかし、専門職業人の再教育を目的とした講座や、小学生から高校生までの若い世代を対象とした講座も開講され、多様な学習ニーズに応えている。このため、開講日時も受講者が受講しやすい土曜日や夏季休暇を利用した講座が多い。

(3) 大学開放諸行事

本学は、市街地に近接した大学としての特性を生かし、多くの大学開放諸行事を行っている。

附属図書館では、施設を開放して高度の学術情報を公開し、一般市民に様々なサービスを提供している。平成12年度の全入館者に対する学外者の占める割合は10%を越えた。

施設開放は、各部局及び附属施設等でも行っており、各種研究施設や設備等も適宜公開し、研究機関としてのアカウンタビリティ(説明責任)の責を果たすとともに、各種の実験、実習、見学を通じて学習支援を行っている。

(4) 高校生等への教育サービス

次世代を担う高校生等を対象にして、カリキュラム上

の連携や、学習意欲の刺激を図るための教育活動も行われている。中学生を対象とした体験学習や、高校生を対象に大学授業の体験学習や、全学公開説明会、理学部説明会及び工学部オープンキャンパス等を進めている。また、本学教員が高等学校等に出向いて行う特別授業（出前授業）や懇話会の企画にも積極的に取り組むとともに、高等学校等教師の研修会に講師として参加し、学校教育の質の向上を図ることに力を注いでいる。

その他、工学部では、岡山情報ハイウェイとテレビ会議システムを利用した、高等学校へのインターネット授業の実験を試みている。

（５）その他の活動（講師派遣、相談活動、展示活動等、各種資格試験、国際貢献）

岡山大学ホームページ上に研究者データベースを公開するとともに、平成 13 年度から地域社会の産業、文化、教育振興を支援する「地域連携推進機構（リエゾン・オフィス）」が設けられ、学外主催の各種研修会、講座等への講師派遣を円滑に行う体制が整備されつつある。更に、講師派遣だけでなく、各種の教育相談活動や、教育委員会との連携による現職教員への支援、情報ネットワーク支援等や、学生ボランティア派遣事業が実施されている。この他、先端産業フェアへの出展等を通じて、教育研究成果を地域に発信している。

また、学校教育、社会教育を中心に、毎年、各種資格試験事業に、地域の関連機関と連携し、講師派遣と会場提供等の各種資格試験に携わっている。

国際貢献の面では、外部機関の要請に基づいて、JICA による教育行政研修生や、東南アジアを中心にした教員研修留学生等を積極的に受け入れている。また、平成 12 年度から、地域に暮らす外国人子女を対象に、日本語教育、教科学習の支援体制もとられている。

評価結果

1. 目的及び目標を達成するための取組

岡山大学においては、「教育サービス面における社会貢献」に関する取組として、科目等履修生の受入れ、公開講座、大学開放諸行事、中・高生を対象とした体験学習、公開説明会、オープンキャンパス、出前授業、インターネット授業、研修会・講習会等への講師派遣、教育相談、展示活動、研修会、施設開放などが行われている。

ここでは、これらの取組を「目的及び目標を達成するための取組」として評価し、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し、目的及び目標の達成への貢献の程度を「貢献の状況（水準）」として示している。

特に優れた点及び改善点等

附属図書館は、情報コーナーを設置し、一般市民に本学の研究成果等の情報を提供している、市民へ開放し、館内での閲覧、文献複写及び所蔵・所在調査などの参考調査のサービスを行っている、インターネットで情報を発信し、ホームページ上での検索・閲覧の整備等、積極的に岡山大学の長い歴史によって蓄積された多方面かつ高度な学術情報を地域社会や市民に公開しているなど、一般市民や地域に密着した、きめ細かいサービスを提供している点で優れている。また、同図書館所蔵の池田家文庫の展示は、全国的にも貴重な歴史的資料を一般市民に公開している点で、特色ある取組である。

岡山情報ハイウェイとテレビ会議システムを利用した高等学校へのインターネット授業の実験は、高速通信回線を使って工学部から県下3高校へ教育情報をテレビ会議システムによって送信するもので、遠隔地に大学が持つ知的情報を提供できる点で、特色ある取組である。また、試行段階ではあるが、可能性は実証されており、本格的に展開させていく必要がある。

教育相談関係では、岡山県教育委員会の事業である県下の適応指導教室への「学生ボランティア派遣事業」や「子ども24時間電話相談」事業に協力して、学生を派遣したり、電話相談員養成講座への講師派遣等を行うなど、岡山教育委員会と連携協力によって教育支援活動を行っている点は、大学の知的資源を広く地域社会に公開し利用に供している取組として優れている。

高校への出前授業や出張講演は、岡山県立城東高等学校や瀬戸高等学校、その他県内高等学校より平成8年か

ら12年まで継続して依頼があり、また、平成8年度と12年度を比べると3つの学部が新たに高校への出前授業や出張講演を行うようになるなど、若い世代の学問への関心を高める点で優れている。

平成12年度以降、学内組織の再編成を行い、従来の40のさまざまな委員会を統合し、審議機関として7つの常置委員会を設け、効率的な運営を図っている点は優れている。

このうちの教育サービスにおける社会貢献を検討する委員会として、第5常置委員会は、地域交流、国際交流、生涯学習といった、さまざまな活動を総合的に管轄している点が優れている。また、全学の教育に関する研究、開発及び企画を行う共同利用施設として教育開発センターが設置されており、この中に、社会連携教育部門、国際連携教育部門が設けられ、大学の連携事業に関する企画、立案を行っている。

一方、生涯学習推進協議会が設置され、公開講座をはじめ生涯教育に関する実施部門として活動を行っている。さらに、平成13年度から地域連携の窓口として地域連携推進機構が設けられたことは、地域の人々から各種分野の相談を受け、それぞれに応じて、講師派遣、技術アドバイス等を地域に対して行う取組となっている点で優れている。

公開講座のうち、「薬剤師のためのリカレントパソコン講座」は、専門職業人の実用的な再教育に貢献するものとして実施されている。中・高生を対象とした「ロボットはこうして動く」は、実習を多く取り入れ、自然科学への関心を深め、若い世代に対する教育機会の提供を行っている点で優れている。「コンピュータ入門」の公開講座は、社会人が参加しやすい朝と夜に開講し、受講者の利便に配慮している点で優れている。

平成8年度から平成12年度までに開講された公開講座の内、土日の割合は、平成8年度7講座(17講座中)、平成9年度7講座(16講座中)、平成10年度11講座(17講座中)、平成11年度10講座(17講座中)、平成12年度13講座(19講座中)と増加しており、広く学習機会を提供できるよう配慮されている点で優れている。

なお、募集人員に対する受講者の割合が60%以下のものが、平成8年度4講座(17講座中)、平成9年度7講座(16講座中)、平成10年度5講座(17講座中)、平成11年度4講座(17講座中)、平成12年度3講座(19講座中)と毎年少なくなってきたが、なお、改善の余地がある。

大学開放行事として、図書館等一部の施設を除いて多

くの施設は、その開放の日時が年1回等と限られており、学外者の希望日時に添えないなど、地域の人々のニーズに対応するという点で、改善の余地がある。

貢献の状況（水準）

取組は目的及び目標の達成におおむね貢献しているが、改善の余地もある。

2. 目的及び目標の達成状況

ここでは、「1. 目的及び目標を達成するための取組」の冒頭に掲げた取組の達成状況を評価し、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し、目的及び目標の達成状況の程度を「達成の状況（水準）」として示している。

特に優れた点及び改善点等

大学開放諸行事として、一般市民に常時開放されている附属図書館は、蔵書貸し出し以外は、市民に対しても利用制限を設けていないため、一般市民の利用者数は、平成8年度6,824人、平成9年度29,940人、平成10年度40,717人、平成11年度47,637人、平成12年度54,462人と年々増加している。また、情報コーナーを設置し、一般市民に本学の研究成果等の情報の提供、市民へ開放し、館内での閲覧、文献複写及び所蔵・所在調査などの参考調査のサービスを実施、インターネットで情報を発信し、ホームページ上での検索・閲覧の整備等、積極的に岡山大学の長い歴史によって蓄積された多方面かつ高度な学術情報を地域社会や市民に公開していることなどのサービスは地域住民から好評を得ており、地域住民の満足度は高く、成果を上げている。

高校生等への出張講演、出前授業は、岡山県立岡山城東高等学校や岡山県立瀬戸高等学校等から平成8年度から平成12年度まで継続的に依頼もあり、アンケートによっても「単なる面白さというだけでなく、学術的な関心が高められた」、「高等学校の教員にとっても有益である」との感想が寄せられており、受講者の満足度は高く、評価を得ている。

公開講座は、受講申込者に対する修了者の割合が平成8年度84%、平成9年度81%、平成10年度88%、平成11年度90%、平成12年度92%と増加傾向にあり、講義終了後のアンケート調査の結果を見ると、大多数が受講に満足を示す回答をするなど、受講者の期待に応えたものになっており、優れた取組である。しかし、専門職業人の再教育を目的とした講座は、毎年2.3の講座に限定されており改善の必要がある。

達成の状況（水準）

目標及び目的がおおむね達成されているが、改善の余地もある。

3. 改善のためのシステム

ここでは、当該大学の「教育サービス面における社会貢献」に関する改善に向けた取組を、「改善のためのシステム」として評価し、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し、システムの機能の程度を「機能の状況（水準）」として示している。

特に優れた点及び改善点等

科目等履修生制度は、それぞれの学部・研究科において選考・許可されるため、主に、各学部等における教務委員会が活動の状況や問題点等の把握に努めている。全学的には第3常置（教育）委員会や教育実施・開発協議会等が所掌しており、各学部における活動状況や課題を全学体制として検討している点は優れている。

公開講座の全学にわたる企画運営は「生涯学習推進協議会」が、各学部等の公開講座の企画運営は各学部等の「公開講座委員会」等の組織が担当している。また、「生涯学習推進協議会」は、各学部等の公開講座の実施状況も把握し、改善の検討を行っている点で優れている。

大学開放諸行事でも、特に附属図書館については、学長の下に置かれた「附属図書館運営委員会」が、各種の企画・運営・実施等を行うと共に、意見箱を設置し、また、ホームページを通して、意見・要望等を受け付けており、学外利用者のニーズや問題点を把握するための体制として優れている。

高校生等への教育サービスに関して、公開説明会や高等学校等の大学訪問に対する企画運営は第2常置（入試）委員会が所掌するが、実施は各学部の責任において行われている。各部局が実施状況や問題点を把握するとともに、改善方策を検討しており、各々の企画実施後、参加者にアンケート調査を行い、改善に際しての問題点の把握や高校生等のニーズの把握に努めている点は優れている。

各種の講演会等への講師派遣は、各部局の教授会が所掌していたが、平成13年度から、全学システムとして、「地域連携推進機構」が設置されることとなった。その活動は全学的社会貢献活動として位置づけられ、教員と直接面識のない相談者等への貢献も可能となった。このように、活動の状況を全学として把握する体制が整備されるようになったことは優れた点である。

平成12年度より、評議会の下に7つの常置委員会が設置され、大学が実施している「教育サービス面における社会貢献」に関する諸活動の企画・実施の中心部分を

担っている。その中で、全学の評価委員会（第7常置委員会）が各部局の諸活動を掌握し、岡山大学の社会貢献活動についての状況や問題点を把握し、改善を検討する体制が整えられたことは優れているが、今後それをどのように機能させるかという点に課題がある。

機能の状況（水準）

改善のためのシステムがおおむね機能しているが、改善の余地もある。

評価結果の概要

1. 目的及び目標を達成するための取組

特に優れた点及び改善点等

附属図書館は、地域に密着した、きめ細かいサービスを提供している点で優れている。また、同図書館所蔵の貴重な歴史的資料を一般市民に公開しているのは、特色ある取組である。

岡山情報ハイウェイとテレビ会議システムを利用した高等学校へのインターネット授業は、大学が持つ知的情報を社会へ提供できる点で、特色ある取組である。

教育相談関係で、岡山県教育委員会の事業に協力し、大学の知的資源を広く地域社会に公開し、利用に供している点は優れている。

高校への出前授業や出張講演は、若い世代の学問への関心を高めるなどの点で優れている。

各種委員会を統合し、常置委員会を設けて効率的な運営を図っている点や、生涯学習推進協議会、地域連携推進機構を設け、公開講座の実施部門や地域連携の窓口となっている点は優れている。

公開講座は、幅広い層を対象としていることや、受講者の利便に配慮しているなど、広く学習機会を提供できるよう配慮されている点で優れている。

多くの施設開放行事は、その開放の日時が年1回等と限られており、学外者の希望日時に添えないことがあり、地域の人々のニーズの把握等の点で、改善の余地がある。

貢献の状況（水準）

取組は目的及び目標の達成におおむね貢献しているが、改善の余地もある。

2. 目的及び目標の達成状況

特に優れた点及び改善点等

附属図書館開放は、年々利用者が増加し、積極的に多様かつ高度な学術情報を地域社会や市民に提供しており、地域住民の満足度は高く成果を上げている。

高校生等への出張講演、出前授業は、継続的に依頼があり、アンケートでもよい感想が寄せられ、満足度は高

く評価を得ている。

公開講座は、アンケートによっても大多数の受講者が満足を示し、期待に応えたものとなっており、優れた取組である。しかし、専門職業人の再教育を目的とした講座は数が限定されており、改善の必要がある。

達成の状況（水準）

目標及び目的がおおむね達成されているが、改善の余地もある。

3. 改善のためのシステム

特に優れた点及び改善点等

科目等履修生制度は、全学的には第3常置（教育）委員会や教育実施・開発協議会等で所掌され、各学部における活動状況や課題が全学的に検討される体制になっており優れている。

公開講座の全学にわたる企画運営は「生涯学習推進協議会」で、各学部等の公開講座の実施状況も把握し、改善の検討を行っている点で優れている。

附属図書館では、「附属図書館運営委員会」が、意見箱やホームページを通して、意見・要望等を受け付けるなど、学外利用者のニーズや問題点を把握する体制になっている点が優れている。

高校生等への教育サービスは、各々の企画実施後、参加者にアンケート調査を行い、改善に際しての問題点の把握やニーズの把握に努めている点で優れている。

各種の講演会等への講師派遣は、平成13年度から、全学的社会貢献活動として位置づけられることになり、活動の状況を全学的に把握、対応する体制が整備されたことは優れた点である。

全学の評価委員会(第7常置委員会)が各部局の諸活動を掌握し、社会貢献活動についての状況や問題点を把握し、改善を検討する体制が整えられたことは優れているが、今後それをどのように機能させるかという点に課題がある。

機能の状況（水準）

改善のためのシステムがおおむね機能しているが、改善の余地もある。